

本校における中高一貫教育について

茂呂 崇

1 本校の概要

本校は千葉県初の県立中学校として、平成20年4月に開校しました。この4月には第14期生80名が入学し、全校240名で日々学んでいます。本校では、「篤学」「協同」「自律」を校訓とし、また、「千葉から、日本でそして世界で活躍する心豊かな次代のリーダーの育成」をスクールポリシーとしています。

例年約8倍の倍率の適性検査を合格し本校に入学してくる生徒たちは、高等学校の入学選抜を受けることなく、千葉高等学校へ進学をします。この6ヶ年を期間とした特色ある一貫教育について御紹介します。

2 校内における教育活動の連携推進

本校は各学年2クラス編成、計6クラスの小規模校です。校内においても異学年連携は日頃から実践しています。八千代市内の中学校でも、体育祭等の学校行事では縦割集団での活動が多かったと思いますが、学習における縦割は大変参考になりました。

【ゼミ活動（総合的な学習の時間）】＊写真1

1, 2学年の生徒が各自の研究テーマを持ち、異学年混成チームで1年間学んでいきます。研究テーマの設定理由、仮説、検証等の各ステージをグループで共有し、学年関係なく意見交流を行っています。発表は全員パワーポイントを活用し、発表に係る資料の活用、話し方等はこのゼミとは別に「学びのリテラシー」という学校独自設定教科の中で学んでいます。

【千葉中アカデミア】＊写真2

1年間のゼミ活動の発表の場として、毎年3月に全1, 2年生が実施しています。屋台村形式により、各自で関心のある研究発表を参観し、午後は各異学年混成チームの代表者発表を全校で聴きます。必ずしも2年生が代表となるわけではなく、あくまでも研究内容成果を基に選出され、昨年度は1年生も代表として発表する機会がありました。

【卒業論文発表会】＊写真3

2年間のゼミ活動を終えた3年生は、最後の1年間を掛けて「卒業論文」に取り組みます。成果物として論文を整えることだけでなく、ここでも全校生徒に対して全3年生が発表する機会を設けます。

このように3年間で異学年集団による協同的な学びの機会と個人の学びを充実させる取組みを行ったうえで、千葉高校に入学させています。



写真1 ゼミ活動



写真2 アカデミア



写真3 卒論発表会

3 千葉高等学校との連携推進

中高の連携については、まだまだこれからという印象があります。私が着任する前までの学校評価で唯一肯定的評価が50%台の項目が高校との連携でした。令和2年度の評価では、保護者も生徒も同項目の評価が10%以上向上しました。コロナ禍でも工夫をした取組を紹介します。

【中高合同体育大会】*写真4

コロナ対応の側面もあった本大会ですが、全中学生と高校1年生を1つの単位とし、半日の大会を実施しました。開校以来初の合同実施となり、開催に向けては4月から高校体育科主任と協議を重ね、やっと実現できました。

【千葉高出前授業】*写真5

本校では、6年間の中高一貫学習マップを作成、配付し、学びの繋がりを意識しながら、学習活動に取り組んでいます。日頃から国語科や社会科は高校職員が中学校の授業を一部担当し、芸術教科は全て高校職員が担う等、人的交流を実施しています。この取組を拡大していくことは、中高双方の教職員や、いずれ高千葉高に進学する生徒にも、大変有益と考えています。

前回の出前授業は、高校職員が中学2,3年生に国数英の授業を実施し生徒達は千葉高の学びの深さ、学問の面白さを体験していました。

【千葉高授業参観】*写真6

中学3年生が3学期に高校1年生の授業を参観しました。4月からは自分がその教室に入り、その授業を受ける、という当事者意識もあり、極めて緊張した表情で参観している様子が印象的でした。今年は学びの見通しを持たせるため、中学1,2年生にも本行事を実施したいと考えています。



写真4 合同体育大会



写真5 高校英語出前授業



写真6 高校授業参観

4 今後

行事や部活動における中高連携は動き出しています。今後は、中学校現場で実践している学びの異学年交流や中高教員の交流を更に推進し、本校ならではの「重厚な教養主義」の具現化に向けて邁進する所存です。